

鳥越一穂・中原未央・山本大也



岩田榮吉・池田誠史・小林聡一

【開館時間】 10:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)

【休館日】 毎週火曜日

【観覧料】 一般 500 円 / 割引 400 円 (65 歳以上、障がい者手帳・三溪園入園券をお持ちの方)

【後援】 **NHK** 横浜放送局  神奈川新聞社

2023.4.15 sat ~ 2023.7.17 mon

横浜本牧絵画館

Yokohama Konmoku Gallery

〒231-0822

神奈川県横浜市中区本牧元町 40-7

TEL:045-629-1150 FAX:045-629-1151

公式HP : <https://www.yh-g.org/>

関連HP : <https://www.iwata-museum.org/>

## 似て非なるものの諸相

「トロンブリユの現在（いま）2023」展示にあたって

当館の展示「トロンブリユの現在（いま）」も今回で3回目となります。今回は、前2回に出品いただいた活躍中の作家の新作を中心に、日本におけるトロンブリユの草分け的存在である岩田榮吉の作品群についての解説を加えて展示を構成しました。

似て非なるもの……と言えば、にせもの、まがいもの、或いはあるべきものではないという意味あいが含まれますが、人は古くから似て非なるものを様々な形で楽しみ大切にしてきました。絵画もその形のひとつであります。

さて一つの花瓶がいかに逼真的に描かれていても、花瓶そのものではありません。それを誰もが承知の上で描かれた対象の見た目、真実、本質や作者の意図に思いを向けているのです。

それでは見る人が今いる室内の調度品と見紛うばかりに細密描写し、「一瞬「本物か？」と思わせればどうでしょう。目前にあるものは「トロンブリユ」に他ならないのです。つまり、「似て非なるもの」でありながら、時に虚実の境目を忘れさせる様式の絵画なのです。現実と虚構、この2者が調和した世界観をどうぞお楽しみください。



『トロンブリユの現在（いま）2021』会場風景

## 横浜本牧絵画館

Yokohama Honmoku Gallery



当館は、横浜の名勝「三溪園」に近く、絵を見ることが好きな方、絵を描くことが好きな方のための、具象絵画を中心とする私設美術館です。

### 岩田榮吉(1929-1982)



当館は「岩田榮吉」の作品を中心にコレクションしております。岩田榮吉は、東京藝術大学油絵科を首席で卒業し、その後生涯パリで制作を続けた画家です。フェルメールなどに代表されるオランダ 17 世紀絵画の影響を受ける一方、トロンブリユ（だまし絵）を始めとして、伝統的な技法を用いた写実的な細密画を多く描きました。

### 公共交通機関からのアクセス

#### 元町・中華街駅より

(東急東横線・みなとみらい線)

ホーム横浜寄りを上り、4番出口右方「山下町」バス停から横浜市営バス8系統「本牧車庫前」行「本牧元町」下車 所要約30分・徒歩1分

#### 横浜駅より

(JR各線、東急東横線、京浜急行、相鉄線、横浜市営地下鉄)

東口バスターミナルから横浜市営バス8系統・105系統「本牧車庫前」行「本牧元町」下車 所要約40分・徒歩1分

#### 桜木町駅より

(JR京浜東北線、横浜市営地下鉄)

横浜市営バス11番乗場から105・106系統

又は2番乗り場から8系統

「本牧車庫前」行「本牧元町」下車 所要約30分・徒歩1分

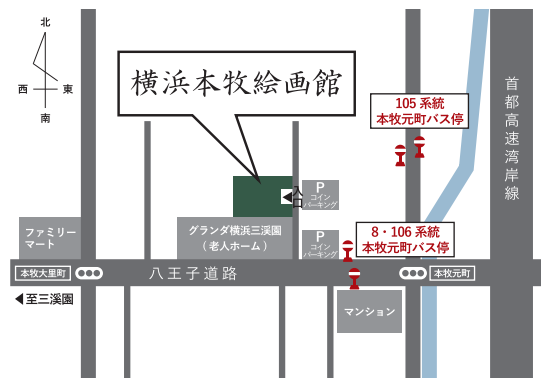
#### 根岸方面より

横浜市営バス58・101系統「和田山口」で下車、

道の反対側の横浜市営バス4番乗場8・106・105系統

「本牧車庫前」行「本牧元町」下車

「和田山口」から所要約10分・徒歩1分



※専用の駐車スペースはありません。(近隣のコインパーキングをご利用ください)  
※車いす用の乗車スペースが1台分あります。ご利用は事前にご連絡ください。



# トロンプルイユの現在 いま

## 2023

*Trompe-l'œil, Today*

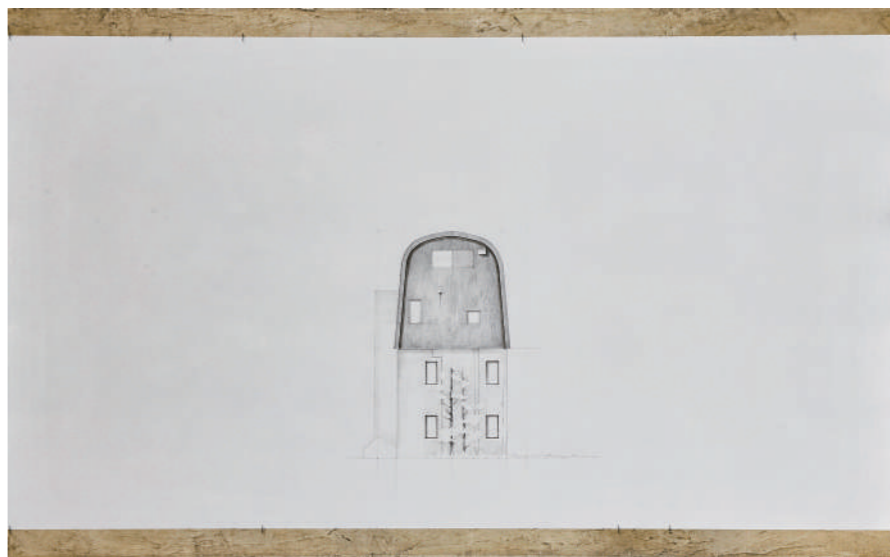
池田誠史 (1971-) Masafumi Ikeda  
 《Display shelf -Doll-》2022年油彩／キャンバスパネル



鳥越一穂 (1974-) Kazuo Torigoe  
 《XII X MXXXII》2022年油彩／銅板



山本大也 (1986-) Daiya Yamamoto  
 《drawing -家屋-》2021年油彩・鉛筆／パネル・  
 キャンバス・ジュエルメデイウム・顔料



岩田榮吉 (1929-1982) Eikichi Iwata  
 《アルルカン (トロンプルイユ)》1980年原寸大複製



〈原画〉油彩／キャンバス

中原未央 (1986-) Mio Nakahara

《記憶の景・おぼろ》2022年ミクストメディア／キャンバス



小林聡一 (1975-) Soichi Kobayashi

《Trompe-l'œil・太陽と月》2023年油彩／キャンバス



## “トロンプルイユ”とは？

### 1. トロンプルイユ=だまし絵 ではない

トロンプルイユ (trompe-l'œil) は、一般に「だまし絵」と訳されますが、この訳をめぐる様々な誤解や混乱が起きています。フランス語の辞書でトロンプルイユ (trompe-l'œil) の項を見ると、「実物と見まがうほど写實的に描かれた絵画」とあり、本来トロンプルイユとは写実表現の追求から生まれた絵画であることがわかります。ところが、「だまし絵」の中には、写實的ではないが、錯覚あるいは心理的誤認を誘引する表現の追求から生まれた絵画も含まれます。つまり、「トロンプルイユ=だまし絵」ではなく、「トロンプルイユ<だまし絵」なのです。

### 2. 見る人のいる現実世界との「つながり」が鍵

とはいえ、「実物と見まがうほど写實的に描かれた絵画」がすべてトロンプルイユということでもありません。何が違うのでしょうか。その違いは、見る人のいる現実の世界との「つながり」にあります。額縁の中などで完結している絵は、描かれた世界と見る人のいる現実の世界との間に「つながり」がありません。これに対してトロンプルイユは、例えば見る人のいる部屋の窓のように、部屋にある調度品のように、あるいは部屋の壁に掛けられた何かのように描かれ、また、額の中の絵の世界から見る人のいる部屋の中に飛び出てきたように、あるいは見る人のいる部屋の中から何かが入り込んでいったように描かれます。